



明治大学校友会

福岡支部だより

明治大学校友会福岡市支部事務局

〒810-0004 福岡市中央区渡辺通4-1-2

セントラルホテルフクオカ内

TEL 092-712-1212

風のふくおか

21号

2008年1月



2008
MEIJI UNIVERSITY
GUIDE BOOK 「目」を強くする大学。

平成二十年元旦
迎春

右賀愛人
支部長



2008年版 明治大学ガイドブック

校友会福岡ホームページ <http://www.meidai-fukuoka.jp/>



いつの間にか平成20年の正月を迎える年になりましたが、校友各位におかれましてはいかがなされておられますか。

私も2月を迎えますと満86才になりますので、

そろそろ明大校友会の県支部長を辞退させて貰いたいと思っているのですが、全国校友会長の青木大先輩から「私はすでに94才を越しておりますが、大学の将来を考え、辞したいのはやまやまですが、体の続く限り、がんばっているのですよ。まだまだ大学の為に一緒に頑張ってくださいよ。」とむち打たれているのです。

この一言に私も全国校友会の相談役という立場から抜け切れず、県支部長という役割を続けさせて戴いているわけです。

従ってこの際改めて校友各位に対し、新年に当たっての言葉として“心から御協力の程を”お願い申し上げる次第です。

ここにその新年を迎えるに当たって、改めて校友各位に厚く御礼を申し上げなければならないのはなんと云っても“大学のなかの校友会館の完成”だったわけです。

10億円を必要とする会館建設費のなかで福岡県校友会に対する寄付金の責任額は1,800万円だったのですが、県内10校友会支部の努力でなかなか難しいところを予定通り達成することができたわけで、この点改めて深くお礼を申し上げますところ です。

全国的にみてゆけば、まだまだ今後も寄付金達成に努力を払ってゆかなければならない地域は、かなりたくさんあるようですが福岡県の場合だけは、とにかく一応他の主な地域と足を揃えて目的を達成することができたわけで、心からみなさんに御礼を申し上げているところです。

福岡の場合は県支部幹事長を中心に皆さんが県内10地区の校友会支部の幹部さん達とよく連絡をとってくれ、さらに10地区の幹部さん達の並々ならぬ努力を得て、ここに寄付金という難しさを克服し、県内10地区の努力を得て、とにかく目的を達成して戴いたおかげであることを報告し、新年に当たってのすべてに先立つ感謝の言葉と致します。

全国校友大会

各県支部持ち回りで、今年43回目を開催しました。毎回1,000~1,300名集まり、他の大学OB会にはない明大OBの誇りであります。

- | | | |
|------|-------------|------|
| 第43回 | 平成19年11月 4日 | 広島大会 |
| 第44回 | 平成20年 9月14日 | 秋田大会 |
| 第45回 | 平成21年 9月27日 | 富山大会 |



明治大学校友会
福岡県支部長

古賀 愛人

(昭和18年・24年・政経学部卒)

大名総合法律事務所

弁護士 岩崎明弘

(昭和34年・法学部卒)

事務所 〒810-0041
福岡市中央区大名2丁目2番26号
親和ビル3階
TEL (092) 781-0019番・781-0025番・771-1967番
FAX (092) 781-0102番・771-1967番

福岡地域支部「秋の懇親会」 平成19年9月7日



昨年まで福岡地域支部総会は5月に行われていましたが、今年からそれを「秋の懇親会」と題して9月にしようという事になりました。これは昨年までは地域支部総会が5月、県支部総会が6月と、続けて総会が行われていたため出席状況がよくなかったので、時期をずらして企画されたものです。

その「秋の懇親会」は初秋の9月7日に行われ、約80名の校友が集まりました。まず昨年の総会以降に亡くなられた方への黙祷を行い、古賀支部長の挨拶や父母会会長の乾杯の音頭で懇親会は始まりしました。校友の懇親が中心のテーマですので、皆さん飲んで食べてお互いの近況を話しあうなどして交流を

深めていました。今回も若手平成会のみなさんが企画を考え、大いに会を盛り上げました。そのアトラクションの景品には明大グッズもあり、大変好評を博しました。

終わりに上杉先輩の指揮のもと、校歌を斉唱して楽しかった懇親会を終わりました。

編一三井 成隆



全国校友広島大会 ～広島での全国大会に参加してきました！～



秋晴れの陽光穏やかな11月4日、第43回明治大学全国校友広島大会が開催されました。

支部の諸先輩方は離れて、前日から広島入りしていた我々一行（今井・新原・古森・櫻木）は、前夜に牡蠣やお好み焼き等を地酒と共に楽しみ、当日の午前中は各自自由行動で広島を満喫し、のんびり会場に向かいました。

驚いたことに広島での全国大会は今回が初めてという事で、プログラムにも開催は「支部の長年の夢、念願であった」とあるように、会場は広島県支部の方々の大会にかける情熱と1300人を超える参加校友とで熱気溢れるものになっていました。

式典は、中谷雄英（S40年経営卒 東京オリンピック 柔道金メダリスト）先輩による大会旗入場で始まり、藤井克彦副実行委員長による開会宣言、水戸川旭大会実行委員長による挨拶と進みました。最近落語好きになった私がとりわけ楽しみにしていたのは記念イベントの三遊亭小遊三師匠の講演です。師匠の断家への道のりが生立ちから学生時代等も振り返りつつ面白おかしく語られ、お腹を抱えて大笑いしました。師匠は最後に今日のギャラから寄付して帰るともおっしゃっておられました。そう言えば懇親会最後に青木校友会会長も「ゴルフに行ったつもりで是非つもり寄付を！」と呼びかけておられました。皆様、明治大学はまだまだ多くの寄付を必要としております。



三遊亭小遊三師匠の講演

さて続く懇親会は、テレビ朝日アナウンサー渡邊宣嗣先輩のメイン司会でテンポ良く進められ、あっという間の2時間でした。アトラクションにフラメンコがあり私はかぶりつきで見ました。後で広島県支部の方に尋ねましたが校友ではないそ

うで残念でした。

懇親会最後は校歌斉唱と杉原孝一郎副実行委員長の挨拶で閉会となりましたが、今回私的に大きな収穫だったのは、矢谷幹事長のご紹介で徳島県支部の幹事長と知り合い、来年徳島の阿波踊りに参加する事になった事です。また次号の支部だよりやホームページで大々的に告知し、参加者を募る予定ですので楽しみにお待ち下さい。

全国大会は今回で3回目の参加でした。同窓生と言ってもほとんどが知らない方々です。でも人が沢山集まる所には大きなパワーがあって、そこには新しい出会いがあります。来年は秋田大会です。また参加できるかは分かりませんが、また新しい出会いを楽しみに参加できれば嬉しいと思います。まだ参加されたことのない方、一度是非参加してみてください。きっと素敵な出会いがあると思います。

※かねてより検討していた久留米の（校友会の先輩方の）蔵元等を巡るバスツアーを2月～3月中に行う予定です。詳細は新年会でお伝え致しますので是非ご参加ください。

編一今井 葉子



アトラクションで出された蛇踊り

台湾校友会 ～校友会の台湾支部総会に参加して～



本年3月で校区や町内の全役職を辞め、6月には勤務していた会社も非常勤役員に退き、自由時間が増えたのを機に母校校友会の台湾支部総会ツアーに初めて参加しました。

今回のツアーは、台湾支部との交流を深め、相互の親睦を図り、併せて台湾観光を楽しむ事を目的に、福岡県支部編笠副支部長を団長に県支部校友13名と、台北空港で合流する韓国支部3名（朴支部長、厳幹事長夫妻）それに大阪支部より1名（菊池校友）の計17名で編成され、11月17日から20日までの3泊4日の日程で行われました。

11月17日、私達は福岡空港に集合、手続き終了後約2時間の飛行で正午過ぎには台北空港に到着しました。そこで先の韓国校友や菊池校友と合流し、以後この17名は最終日まで行動を共にします。

台湾支部総会は台北市国貿ホテル楼外楼において午後6時30分開始されました。出席者は80名を超す盛況で、多数の台湾校友の他に、大学より納谷学長、根田常勤理事、校友会より今年94歳の青木会長、更には福岡在住の周駐福岡領事が参加されました。



台湾、日本、韓国の国旗と明治の校旗の前で挨拶をされる編笠団長

総会は葉台湾支部長の挨拶で始まり、ついで各組織代表がこれに続き祝辞を述べられました。中でも納谷学長の近況報告には、今後の大学の発展が予感され大変感銘を受けました。こうして議事は終了し懇親パーティーに移りました。パーティーには中国文化大学国楽団の国学演奏で始まり、時間の経過と共に全員が明大出身という連帯感も加わり、次第に交流の輪が広がり、紹興酒による台湾式乾杯の連続で親睦ムードは最高潮に達しました。そして最後は上杉校友の校歌斉唱とエール交換で盛況のうちに閉会になりました。

翌日18日は今回のツアーの目玉である「阿里山観日」のため、台北より新幹線で中南部の都市嘉義まで行き、更に専用バスに乗り継いでほぼ半日を要して阿里山まで移動しました。当夜は明日に備えて早目の就寝になりましたが、これまでの日の出見物旅行がすべて天候不良で失敗している私は、明朝の天気が大変心配でした。

翌日19日、4時半起床で起きた私達は満天の星に迎えられ、私の心配は全くの杞憂に終わりました。日の出を見る場所は満員のトロッコ列車で30分上に行った所の祝山です。そこは既に沢山の見物客が溢れており、また現地のガイドのマイクも騒々しい、そういう中で待つ事約30分の午前7時37分。玉山稜線に現れた太陽の姿の何と神々しく神秘的であることか！その輝く美

しさは何物にも例えようがありません。この一瞬でこれまでの疲れが解消した思いで、素晴らしい体験でした。



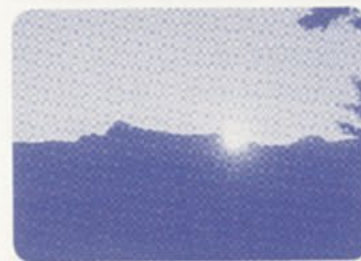
台湾新幹線の中で

た。念願の「阿里山観日」に満足した私達は、阿里山を下して新幹線で更に南下して、最後の目的地である熱帯の高雄に着きました。そこで私達は再び南海に没する太陽を目にする事ができたのです。この日私達は、阿里山での真冬の寒さと高雄の熱帯の熱さを同時に体験いたしました。

ツアー最後の会食は海鮮料理です。本日の体験談と台湾式乾杯で座は盛り上がりましたが、宴会も校歌斉唱とエール交換でのお開きになりました。その後は各自夜市散歩などで最後の夜を楽しみました。

最終日の20日は、高雄空港で他支部参加の4名と再会を期して分かれ、台北経由で帰国の途に着き、午後7時15分全員無事に福岡空港に帰着いたしました。空港での団長挨拶でこのツアーは解散いたしました。私にとってこのツアーは明大校友であることの良さを改めて確認できた貴重なツアーでもありました。最後にこのツアーの全般を世話された上月校友のご苦労に深く感謝いたします。

(S34法卒 松尾 勝司)



神々しい輝きの日の出
(左側の高い山が新高山)



高雄の澄清湖の中の九曲橋の前で



台湾に関する話題1

◆◆◆ Topic

校友の周 碩穎氏が台湾の駐福岡事務所の所長である関係から、台湾に関する行事への案内が2つほどありましたので、皆様にご紹介させていただきます。

一つは9月1日に行われた講演会で、台湾の国家安全会議 秘書長（日本ではあまり聞かれない肩書きですが、日本での外務大臣との事）の陳 唐山という方の話でした。陳 秘書長は戦前の国民学校2年生まで日本語を使っておられたとの事で、中国や米国そして韓国やその他の国々との関係など、なかなかニュースや新聞では分からない事を流暢な日本語で話されました。そしてアメリカに長く住んでおられた経験から、今の課題である国連加盟の必要性を訴えられました。

もう一つは台湾の建国記念日に当たる国慶記念日です。中華民国（台湾）96年国慶記念日が10月5日に行われました。当日は福岡支部校友をはじめ、久留米支部や大牟田支部からも校友の参加者がありました。まず始めに校友の周所長が挨拶され、中華民国（台湾）は1912年建国され96年になる。現在の最も大きな課題は国連加盟である。台湾と日本は世界にもめずらしい兄弟のような関係であるが、台湾の国連加盟は日本の発展や社会の発展に大いに寄与するものである。是非国連加盟を実現したいと話されました。

その後、関係団体の方々から挨拶をされた後、懇親パーティーに移りましたが、事務所のまだ若い渉外課長の呉沛晃氏に日頃疑問に思っている事を聞いてみました。「私達があなたの国を呼ぶ時、どう呼んだらいいのでしょうか？つまり<中華民国>と呼ぶのと<台湾>と呼ぶのではどちらが失礼でないのですか？」。それに対して

呉 課長は「我々の先輩方、それも年配の先輩方は歴史もある中華民国と言って欲しいようですが、若い人々は台湾の方をより多く使っているようです」といったような内容を話してくれました。

呉 課長は慶応義塾に1年間語学留学して日本語を覚えたようですが、台湾と慶応義塾にはそういうシステムがあるとの事。そういえば早稲田もこの秋、台湾フェスティバルをしており、各大学も台湾とのネットワークに力を入れてきているようです。これは後日、校友会の台湾総会で納谷学長が話された事ですが、明治も台湾の大学と姉妹校などの交流をどんどん広げているとの事でした。

編 一本田 博志



周所長を囲んで



陳秘書長からいろいろな話を聞きました



台湾に関する話題2

◆◆◆ Topic

昨年、校友会台湾支部総会に出席された大牟田の古賀久雄支部長は、訪問先の台湾の花蓮で大きな蛇紋岩のテーブルを購入されました。たまたま校友である台北駐福岡辦事處の周處長の出身地が花蓮であったことで、明大校友会台湾支部第1回訪台記念の卓として購入されました。帰国後、命名の碑を作成して台日友好交流の証にしたいと考え、周處長よりテーブルに命名して頂き、併せて裏面に団長以下参加者12名の名前を彫り、記念とされました。

周處長の命名の言葉は以下のとおり

台日明治大学校友

国際交流 記念卓

花蓮之美
敦睦邦誼

台北駐福岡辦事處

處長 周 碩穎

2007年6月22日



テーブルと碑

ダイニッカ株式会社

参与 内田 紀生

(昭和40年・法学部卒)

〒813-0062 福岡市東区松島3-3-5
TEL (092) 621-1631 (代)

本社

〒104-0032 東京都中央区八丁堀1-9-5
TEL (03) 3552-3151 (大代)

明宅会

イースタン産業(株)

代表取締役 野口 順四郎

(昭和41年・法学部卒)

福岡市東区多の津4丁目8-1
TEL (092) 611-4423

活魚料理 食事処

杉庵

会長 上杉 鷹雄

(昭和33年・商学部卒)

〒813-0062
福岡市東区松島3-16-11
TEL 611-7284

今回の校友クローズアップには、この度、明治大学全国校友会の副会長に就任された、絹笠 順一先輩に登場願った。絹笠副会長は、昭和31年商学部卒、福岡県支部副支部長そして久留米地域支部長を歴任されており、新年交礼会や県支部総会の挨拶などで、いつも含蓄のある話をしていただいていることは皆さんご承知のとおりです。



○バックボーン

絹笠副会長は8人兄弟の末っ子で、父親からは「麦を見習え（麦は踏まれても伸びてくる）」と、母上からは「バカでも大将になれ」と言われて育てられたそうだ。母親の影響が強かったのか、まず明善高校ではボクシング部や応援団を自分で作って部長になり、大学でも美術研究部の同好会を作ってやはり部長になっておられる。「長（チョウ）がつけばなんでもよかつたろ——脱腸でも面丁でも」とよく友達から冗談を言われたそうだ。その美術の方では、現在久留米文化推進協議会の会長や財団法人久留米振興会の理事として、文化・芸術の分野で地域に貢献しておられる。

○明治との出会いと校友会

そもそも明治大学は、一橋大学を受験するため上京して、締め切りの3日前に願書を出したくらいで特に強い志望があったわけではなかったが、入ったら「明治でなければ大学にあらず」と思うくらい好きになったとの事。校友会活動は昭和35年ごろから参加されているが、久留米支部は昭和36年に地方支部として結成され、昭和55年10月に正式に支部として発足している。初代支部長は大石信先輩だったが、この方が全国農協会会長や吉井町の名誉市民という事でいろいろ公職で忙しかったので、実質自分が代行するような形で活動してきたそうだ。支部発足までには福岡支部の山崎銆秋支部長に指導してもらい、大年田にも挨拶に行ったりして、支部として認可してもらったとの事。そして昭和59年2月に久留米支部長に就任されている。以降かれこれ23年間支部長をしてこられているが、その前から考えると



帽子をかぶる学生が多かったがほとんどかぶらなかった

まさに福岡・久留米の校友会の生き字引的な存在である。

○今の大学の話を聞く

明治はどんどん良くなっている。長吉理事長が理事長になって最初に福岡に来られた時、「理事長は公認会計士だから、大学も経営人の時代になりましたね。すばらしい大学の経営をされるでしょう。」と話したが、事実そのとおりに進んでい

る。長吉理事長は骨のある人で、根性がある。信念というか根本の理念を持っておられる。今が一番よくなっているが、その今が一番大事な時で、決して慢心してはダメということをよく知っておられるね。

○事業の話を聞く

もともと大石化成という化学系の会社に入り最終的には社長までなったが、なかなか伸び悩んでいた。その頃、材料の仕入でシンガポールに行ったが、華僑の連中が今というポケベルを使っていた。ピーピーとなったらすぐ電話をかけに行く。おもしろい物だなと思っていたら、次に行った時は自動車電話になっていた。それでこの新しい分野は伸びると思い、社内の反対を押し切って進めた。しかし簡単に扱えると思ってNTTに行ったら、全く相手にされなかった。そんな時、九電がポケットベルを扱うというので話しに行ったら、中山専務という人がおられて何とこの人が明治だったので、いっぺんに親しくなり、その方のご縁でこの業界に入ることができた。中山さんからそのうちに携帯電話の時代になるような事も聞き、現在に至っているとの事。「その外でもずいぶん明治の先輩や後輩にお世話になった。学び舎が同じであった事がずいぶん大きな素地になって来るね。自分を産んで育ててくれた学校。やはり明治は有難いな—と思う」と話される。

○論語の話を聞く

絹笠副会長は、論語や朱子学など大変詳しく、お話の中で泉のように言葉が出てくる。久留米では毎月第3木曜日に「三木会」と題して、校友の若手経営者を集めて勉強会を行われている。「先人達はいろいろな事を教えてくれているからね。」今回の取材でもいろいろと話をお聞きしたが、孔子の「一を持って貫いた」という話は興味深い話だった。紙面の都合で詳しくは割愛するが、要するに生き方の教えを説いたものだ。

最後に、話の中でたびたび出てきた「母校」という言葉。このインタビューをこの言葉で締めくくりたい。この言葉も絹笠副会長の言葉になると本当に有難く感じられる。「母校——我を産みたもう、育ててくれたもうところ。大人になった我々はもうそろそろ大学を支援し賛助する心が必要だろう。」

これからも九州地区校友会の隆盛のためにも、ご活躍をお願いしたいものです。

編一本田 博志



久留米地域支部主催副会長就任祝賀会にて

第10回 明治大学ホームカミングデーに参加して



さる10月14日(日)、第10回になるホームカミングデーに参加してきました。この行事はリバティータワー竣工の年に第1回が開催され、母校の「今」に触れながら学生時代に戻って楽しんでもらうという企画で開催され、今回で10回目となります。今回の参加者は昭和27年以前、32年、42年、52年、62年、平成9年の卒業生に呼びかけられ、その数は5,000人はいたでしょうか。

午前10時よりアカデミーコモン会場で開会式が行われ、長吉理事長が「皆様本日は母校へようこそお越し下さいました。あらためてお帰りなさい」と挨拶をされ、引き続き納谷学長、青木校友会会長そして村山富一校友会名誉会長の祝辞が続きました。都心型大学の地の利を生かし、社会的ニーズに対応した幅広い施策を積極的に展開していき、私学の雄として21世紀に羽ばたいていくという内容の話が聞け、母校の大いなる飛躍に胸が躍りました。

次に卒業年度代表者による挨拶があり、32年はボクシングの米倉健司氏(福岡高校出身)、42年は世界的に有名なフランス菓子パティシエ 吉田菊次郎氏、52年はテレビで活躍のテレビ朝日アナウンサー渡辺宣嗣氏、62年は朝日新聞記者の松本英仁氏、平成9年は農水省主任研究官の小松 晃氏がそれぞれの仕事の中での苦労話や先輩後輩との交わり、明治との関わりなどを話されました。最後に



ホームカミングデーで配られたパンフレット類

明治大学交響楽団の伴奏で、全員肩を組み、校歌の大合唱で式典を終了しました。

午後になって、リバティータワーとアカデミーコモンの各会場では星野仙一氏(野球日本代表監督)と蟹瀬誠一氏(国際ジャーナリスト・文学部教授)の講演会を始め、マンドリン倶楽部等の演奏会、学術講座、展示会、全国物産即売会、スポーツトーク、サークル・ゼミ・クラス会、さらに大福引抽選会など多種多様な催し物企画がありました。私はクラス会に参加しましたが、40年ぶりの友人もいて大いに話が弾み、明るいうちから御茶ノ水の街に出て、徹底的に痛飲しました。

翌日は、神宮に明大対早大の野球を見に行きました。試合は早稲田のハンカチ王子・斎藤君をノックアウトし、9回逆転さよならで勝ち点を上げ、40年振りに神宮球場で現役学生と一緒に校歌を歌うことができ、非常に感激しました。

来年参加資格の皆さんも是非出席して、学生時代に戻り、かつ現在の母校を確かめて、心身をリフレッシュして、新しい一歩を踏み出していきたいと思います。

(S42文卒 高園 義郷)



式典の様子

新年交礼会のご案内

福岡市地域支部の新年交礼会を下記の通り開催いたします。是非ご出席下さい。

- 日時 平成20年1月22日(火) 18時30分
- 会場 セントラルホテルフクオカ・3Fダイヤモンドホール
福岡市中央区渡辺通4-1-2 TEL092-712-1212
- 会費 5,000円
(但し、女性校友及び平成12年卒以降の校友は4,000円)
- 問い合わせ先
福岡市地域支部幹事長 矢谷 学(昭50法卒)
TEL092-631-3336(三栄印刷)



代表取締役
松山 孝義
(昭和60年 法学部卒)

松山建設株式会社

〒810-0011 福岡市中央区高砂2-24-23
TEL 092-533-0001 FAX 092-533-0002
e-mail:tm1999@pop06.odn.ne.jp

東の会 忘年会開催される！！

去る平成19年11月27日（火）、東の会恒例の忘年会が開催されました。

東の会は、故森泰播先輩が中心となり東区に縁がある緒先輩達が集まり結成され、すでに23年の歴史を誇っています。東の会忘年会は、「六駒」（安永先輩（S30商）経営）と「杉庵」（上杉先輩（S33商）経営）で持ち回り開催していますが、今年は、安永先輩が中洲春吉に肉料理店「金篇（KINTUTA）」を11月に開店されましたので、紹介を兼ねて当店で開催しました。奥園克彦先輩（S29法）を始め、大牟田地域支部長古賀久雄先輩（S33商）出席の元、23名が出席し、なごやかな雰囲気の中で忘年会が行われました。今回は安永先輩のご配慮で、シャンソン歌手岡本千恵さんが招かれ、彼女の華麗な歌声をたのしみながら、また、お洒落な洋風肉料理をディナー形式で戴き、いつもはパンカウな先輩達も今回は上品に忘年会を楽しんでいました。しかし、ワインや紹興酒（福岡駐台北周領事か

ら差し入れていただきました）が入るにつれ、いつしか先輩方は元のパンカウ姿に戻り、最後は恒例の明治大学校歌を声高らかに斉唱し、また来年の再会を誓って解散しました。

（S52商卒 東の会連絡係 大田 芳弘）



新しい店で挨拶をされる安永先輩

西の会

初秋の10月20日、「西の会」を室見川沿いの「割烹三四郎」で開催いたしました。

今回は、少しでも校友に興味ある会にするため、井手安美会長の発案で2部制にしました。

1部は講話を計画しました。どなたに講話をお願いするか役員会にて協議の結果「日本の政界を半世紀以上見続けた人物」古賀愛人支部長以外にないと全会一致で決定。お願いしたところ、快諾いただきました。当日はご来賓を含め約30名の参加がありました。

懇親会に先立ち、古賀愛人支部長の講話は30分ほどで、戦後の政界史のほんの一端でしたが、大変興味深いものでした。この効果もあり、今回も4名の校友会初参加があり、校友の輪を広げる目的を果たせたのではないかと思います。懇親会はいつもの通りの盛り上がり、あっという間に予定時間が過ぎて、いつもの通り校歌を高らかに歌い、快い酔いの中で散会いたしました。「西の会」では今後も色々催事を計画いたしますのでぜひ多数のご

参加をお願いします。

未筆ですが、古賀愛人支部長にはご講話謝礼も出せず、さらに会費まで頂き役員一同紙面をお借りしてお礼申し上げます。

（S49年工卒 井手 健）



古賀支部長の講話



みんなで肩を組み、校歌を歌う

HONDA

PARTS

Hondaの部品・用品の卸・販売会社

株式会社 ホンダパーツ西南

代表取締役社長 佐々木 義宣（昭和37年文学部卒・柔道部OB）

本社 〒816-0092 福岡県福岡市博多区東那珂3-2-12

TEL 092-433-0433

営業所 福岡・北九州・大分・佐賀・宮崎・鹿児島・山口

東京6大学OB会ゴルフ会 明治優勝

第11回東京6大学OB会ゴルフ会が11月10日(土)JR内野CCで法政大学福岡OB会が幹事校で開催され、明治が念願の初優勝をしました。平成9年(1997年)に早稲田・法政・立教の4校で始めた東京6大学OB会ゴルフ会も今年で第11回を迎えた訳ですが、毎回優勝候補に挙げられながら、いつも僅差で2・3位に甘んじていましたが、今回やっと優勝が出来ました。参加総数92名、上位5名のNET合計で順位を決定しました。今回、明治から17名参加し、明治の参加者全員が好スコアで92名中上位5名に個人優勝・準優勝を含め3名、20位以内に7名入り、上位5名のネット成績のみならず、グロスも圧倒的な強さをみせました。

この大会はチャリティー資金も集め、本年は福岡市社会福祉協議会「ももち福祉プラザ」に10万円寄付いたしました。来年は早稲田が幹事校で11月に開催予定です。

団体戦

優勝	明治	356.8
2位	早稲田・東京	360.8
4位	法政	365.8
5位	慶應	373.6
6位	立教	376.6

個人戦

優勝	明治	小林 隆利(S53工)	37・39・76 HD7.2 NET68.8
準優勝	明治	上田 芳央(S49経営)	37・39・76 HD6.0 NET70.0
3位	早稲田	木下 英資	NET70.6
4位	明治	大黒 勇一郎(S61法)	40・38・78 HD7.2 NET70.8
5位	東京	木下 明	NET71.0

前回、明治が幹事を務めた第10回大会では、0.2の僅差で慶應が優勝し、法政とはHDの差で3位でした。今回こそはと雪辱をはかるべく、若手を中心にメンバーを集めました。出張や怪我で辞退者が続出していました。そこに甲子園投手で、昭和49年秋に神宮で

優勝した時のピッチャー上田芳央校友が転勤で福岡にいたことが分かり、早速参加してもらいました。満を持して当日に望みましたが、天候も良く絶好のゴルフ日和、他の大学の話を聞くと皆いいスコアで上がっているとのこと。それに引き替え我が校では期待の選手が伸び悩んでいるとか、失敗したとかの話ばかりで、半分諦めていましたので、表彰式が行われた八仙閣では、発表まで飲むばかりでした。成績発表で4位に大黒君が、残り2名のOUT・INの数字が発表されると上田氏・小林君が同時に俺だと声を上げました。二人はOUT37、IN39と全く同じであり、HDで1位と2位になりましたが、明治優勝の大立役者でありました。念願の優勝カップを貰い、優勝の挨拶をしたわけですが、酔いのため何を話したのか、又まとまりのない挨拶だったようです。ゴルフをされませんでした。懇親会に参加いただいていた明福ゴルフ会前会長小石原先輩のリードのもと参加者全員で明治大学校歌を声高らかに気持ち良く歌いました。他の大学の皆さんもこれまた気持ち良く祝福し、校歌と一緒に歌っていただきました。ゴルフを通じ、明治の校友とは勿論ですが、他の大学の方々と大きな交流の輪ができました。来年も優勝し声高らかに「白雲なびく駿河台」と歌い、美味しいお酒を飲みたいので、我と思わん方のご参加をお願いします。

明福ゴルフ会事務局 矢谷 学



感激の優勝カップをもらう



明治大いに歌う

東 法律事務所

弁護士 東 拓治

(昭和59年 法学部卒)

〒810-0042
福岡市中央区赤坂1-16-13 上の橋ビル3階
TEL 092-711-1822
FAX 092-752-1287

三井税務会計事務所

代表 三井 成隆

(平成4年 商学部卒)

〒810-0001
福岡市中央区天神4-8-25 ニッコービル6階
(福岡税務署横、JA福岡信連前)
TEL 092-718-0191 FAX 092-718-0391
Email: mituitax@ybb.ne.jp

福馬土地家屋調査士事務所

土地家屋調査士 福馬 政彦

(平成10年 法学部卒)

〒814-0031
福岡市早良区南庄6-2-13 汐入ビル102号
TEL 092-833-5415
FAX 092-833-5416

平成会

あいすまんじゅう・クロ棒・蔵元 etc...久留米には訪れてみたい職場に先輩方がたくさんいらっしゃいます。そこで以前から諸先輩方の会社を見学するツアー



丸永製菓株式会社 永瀬先輩と

を密かに計画していましたがいよいよツアーに向けて7月31日(火)下見に出かけましたのでご報告致します。工場内部の見学をさせて頂いたのですが衛生上の問題でできませんでしたので次回は蔵元を下見してツアーに組み入れようと思っております。



クロボー製菓株式会社 吉村先輩と

あいすまんじゅう、白くまで有名なアイスクリーム製造会社。美味しい試食をいただきながら昔の苦労話を含め経営について教えて頂きました。多忙で責任が

大きい立場にいながらもご自身へのご褒美と更なる人間的成長、知識習得を目指し毎年一度、海外旅行に一

人でお出かけになるとのこと。嬉しそうに旅先での思い出話やグルメ情報を話される眼差しがきらきらと少年のように輝いていたのが印象的でした。九州だけに限らず全国に営業所を展開し2002年に関東に工場も新設されるなど躍進続けるその背景には永瀬先輩の溢れるバイタリティがあればこそと感じました。

74歳で笑顔が素敵な現役社長。久留米菓子協同組合で理事長も務められておられるとの事。クロ棒の作り方など教えていただき手土産もたくさんいただきました。80年の伝統と技術を守っていくことへの情熱と工夫が感じられました。本年秋には新しい工場が完成予定。またぜひ見学に行きたいです。



株式会社オーレック 今村先輩と

今回ご紹介できなかった諸先輩方の会社紹介は校友会ホームページ内の平成会・活動報告に掲載しておりますので、ぜひ御覧下さい。

編一今井 葉子
(H9商卒 女賀 信二)

明志会報告

昭和59年卒の松本靖朗さんが中心になって、定期的に勉強会を開いている「明志会」。

9月、10月、11月と精力的に集まって勉強会&交流会を開きました。その報告です。

①今年の夏は本当に暑かったですね。校友の皆さんも今年のビールは格別おいしかったことでしょう。2ヶ月に1回ペースで講師を招いて勉強&懇親会を開いている明志会では、夏バテ気味の幹事から「たまには飲み会だけやりませんか」との声に「そうやね。暑気払いしたい!」と天神「じゃんくう」にて開きました。

当日は約20名の参加者。乾杯の後は「暑かね～」を枕言葉でそれぞれ近況を語り合いました。この日は北九州からも新人が参加していただき、「きれいどころ」OGも華を添えてくれました。最後には恒例の一人スピーチで大いに沸きました。2次会ではカラオケ大会。最後は校歌(カラオケメニューにあります)を全員で合唱し散会しました。次回は平常どおり講師をお招きして開きますので、是非ご参加ください。

②10月12日の明志会は久留米餅の製造・販売「オ

カモト商店」の野口和彦校友をゲストスピーカーにお招きしました。久留米餅は200年以上の歴史を持つ国の伝統工芸品で重要無形文化財に指定されています。餅の産地で唯一元気な産地は久留米だそうで、野口校友はその伝統産業を守るために色んなことに取り組んでいます。ブラウス、スカート、アロハシャツ…へー、こんなものも久留米餅で作るんだと参加者からは驚きの声が上がっていました。

この日は北九州からも3人の校友がわざわざ参加。例のごとく2次会、3次会に流れていきました。

③今年も残すところあと1ヵ月。「本当に早いもので」を合言葉に11月27日、業院の「なかむら」で明志会の忘年会が開かれました。少し大人の雰囲気でもうとそばの店に。19名の参加者と意外な盛況でした。若いOGたちも参加し、その色香にほだされて飲み過ぎた校友もちらほら。大人の雰囲気を台無し(?)にしていたのもご愛敬です。

今年も色々ありました。校友の新しい年の活躍を祈念して最後は校歌を高らかに合唱しました。来年も面白い企画を立てますので、より一層のご参加をお待ちしています。

(S59政経卒 松本 靖朗)



早いもので今年も大相撲九州場所の時期になりました。恒例の春日野部屋親方を囲んでの激励会を去る11月1日に執り行いました。小石原会長より叱咤激励のお言葉を頂き会は始まりました。春日野親方からは相撲界全体の事及び部屋の近況報告を伺いました。今年は朝青龍の件と時津風部屋のリンチ事件など、不祥事があり不本意な一年になりましたが、部屋では若手力士が力をつけており、きっと来年はいい年になると思います。

(S60政経卒 赤壁 幸哉)



春日野親方を囲んで

編集後記

校友の皆様 新年明けましておめでとうございます。早いもので平成も20年目に入ります。この20年、あまりいい事はなかったな—というのが実感で、その分昭和の楽しかった事がいろいろと思い出されます。単に自分が年とったせいかもしれませんが、実際に暮らしくなくなっているのも事実のようです。

さて、今年の子年。十二支の初めの年で重要な年です。「子」の字は「増える」意味で、種子の中に新しい生命が芽生える様子を表しているそうです。新しくよい事が芽生えて成長し、いい社会になるような年にしたいですね。

さて、先ごろ大学の納谷学長のお話を聞く機会がありました。入学希望者が増えて、トップを争うぐらいになっている事や、外国の大学との交流が増えて、留学生も多くなっている事、また新学部の国際日本文化部の創設など、新しい時代に向けての大学が着実に大きく立派になりつつある事

を実感しました。

私達校友も母校に恥じないようにがんばりたいものです。さて、いつものように広告を頂きました校友の方々にお礼申し上げます。また、今回は若い校友の方々にも広告を出していただきました。ありがとうございました。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

編集委員一堂

- | | |
|--------|--------------|
| 編集委員長 | 本田 博志 (昭52法) |
| 委員 | 佐野 貞和 (昭59工) |
| " | 三井 成隆 (平4商) |
| " | 今井 葉子 (平4営) |
| " | 石迫 弘久 (平8文) |
| 校友会事務局 | 矢谷 学 (昭50法) |
| " | 高野 礼子 (平元法) |

機能だけではなく、
快適という基準
今からのまちに必要なと思う。
誰もが感じる気持ちよさ
これからもいろんなところで
カタチにしていきたい。



いつも人が
発想の原点。